kosei
生かされ、生きるチカラ。

挫折を人生の糧にかえる。娘に教えられた生きる力。

小倉教会　安武孝枝さん

安武孝枝さんの長女は、高校1年のときに心の病に罹り、不登校になってしまった。「将来は教師に」と期待していた自慢の娘。すべもなく悶々としていた時、知人からアドバイスで、自分の願望を押しつけていた愚かさに気づき、長女に詫びた。それから、また傷つけてしまわないかと不安を抱えながら6年の歳月が過ぎた頃、長女は勤め先の店長との不和が原因でクビになる。自分の存在すべてを否定された思いで再び心の殻を閉じてしまった。途方に暮れるなか、親身に相談にのってくる人が「十分にがんばってきました。いま、そのままのあなたでいいのです」と長女を諭すと、沈んだ面持ちが、まるで陽が射すようにパッと明るく変わった。自分にも価値があると信じる気持ちになることができ、新たな職を得て元気に働き始めた。長女が健康を取り戻せたことを喜ぶ一方、孝枝さんは親子関係を省みた。そして、「病気と格闘した年月で娘も自分も成長し、苦によって生きる力を与えられた」と感じている。

人を育てる

育児に疲れた親がわが子を手にかけてしまうといった不幸なできごとが起きるほど、子育てには子育てのたいへんな苦労があります。組織・集団において、教育や人材育成がなかなか計画どおりにいかないのも現実でしょう。その結果、当事者が負うストレスは、身心の不調や人間関係のトラブルの原因ともなります。これでは、何のための人材育成なのかわからなくなりそうです。

では、人を育てる立場の人は、「何のために」、そして「だれのために」人を育てるのでしょう。

見た目には相手のため、そして組織や集団のためなのでしょうが、一義的には、自分を磨(みが)くためのよい機会が人を育てることであり、教育とは相手の縁にふれて自分も共に育つことだと思います。そのように受けとめると、相手に対して過剰な期待をしたり、性急に成果を求めたりすることがなくなります。むしろ、うまくいかないときほど「このご縁は、私に何を教えてくれているのだろう」と自省をうながしてくれます。つまり、教えるより先に自分を磨くこと、それが人を育てる最短の道だと思うのです。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615